

左右に門番あり右を歌ひ朝日新聞赤新聞にて門番のすきを。
何ひ走り通る捕へらるれば門番となる

二十九、通さん坊通さん坊。どこから通りそな裏
から通りはな（通りそなをついめたるなら

子 供 の 間 食

醫學士 石 塚 保 吉

子供の間食については人によつて説を異にして居るやうである。全く無用の長物とけなす人もあれば、是非、子供に必要缺くべからざるものであると主張する人もある。私は、間食必要説に賛成する。なぜといへば、子供は、大人と違つて、生きてゆくといふ事の外に、大きくなる、發育するといふ餘分の仕事があつて、

その成長のエネルギーに對して、餘分の食物を要するからである。

ん)

二三人肩組みをなしかく歌ひて歩む横より數兒出で來り其通
らんとし。通さんとし追ひ追はる

餘分の食物を、三度の食事に詰め込まうとする
と、子供の小さな胃袋は、忽ち痛められるから、中
間に適當の時を定めて、不足の食物を補はなけれ
ばならぬ。間食は必要缺くべからざるものである。
しかし、之を與ふるには、適當の制限を要する。
時間も定めず、分量もきめず、種類の選擇もしな
いといふのならば、全く間食は有害至極のもので
ある。

間食を與ふるには、一定の時を定め、食物を撰

博覽會と子供

び、分量も制限せねばならぬ。時間は世間に行はれて居るやうに、午前十時と午後三時とに定めてそれ以外には、決して與へぬやうにするがよい。それを斷行すると、子供の方でも、習慣になつて、他の時間に請求するなどの事なく、間食を最有効に用ふる事が出来る。間食物の種類も大に選擇しなければならぬ。子供の年齢に應じて斟酌すべきであるが、極小さな子供には、牛乳五勺に食麩二切れ位がよい。

大きな子供には、菓子、芋類などを與へてもよい。餡や豆類はなるべく避けて、ビスケット、煎餅、餡のない麩類を撰んだ方がよい。子供はよくバナナを喜ぶものであるが、此果物は腸をこわしややすい。新らしい青々としたのは少し位差支ないが舊くなつたのは、微菌養成に最ふさはしい状態にあるから、必ず之を避けるがよい。分量は年齢にしたがつて（勿論その身體の強弱にも注意すべきであるが）適度に増加してゆくがよい。

博覽會場内に多くの飲食店が開かれるであらうが今日までの經驗によると、この種の場所に於ける飲食物は、とかく病氣の原因になりやすい。其理由は、正月や、祭日に食傷するやうに、分量を過すといふ事もあらうが、店の不注意にやる事が多い。かゝる場所では、店の考が違つて来る、自分の店では信用を重んじて、品物に注意するが、こゝでは相手が違ふので

何でもよいから量を多く賣捌かうとする。量が多いから、しらすく製法が粗雑になり、取扱ひが亂暴になる、従つて、微菌がはいつたり、品物がわるくなる機会が多い、それを飲食して病人が出来る。無理のない話である。

故に、博覽會は見物だけに止めて、飲食のことはたとひ子供が請求しても、よく之を説諭して、なるべく會場をはなれた、信用のある店で用を便

じるがよい。

子供の博覽會見物は、幾度にもさせるがよい。幾千の珍らしい物品が、陳列せられてあるから、之を一度に見せるといふのは、子供の頭の爲めに甚だよろしくない。そんな事をするとき一時に強烈な刺戟を受けるので、ボンヤリしてしまつて、歸

つて「何を見たか」ときかれても、一向何にも覚えて居ないといふやうな事になる。加之、往々、之が爲めに安眠が出来ないといふやうな結果になる。故に、面倒でも、子供には、必ず一度に一部分づゝを見せる事にするがよい。教育上にも、それが有効であらうと思ふ。

躰方の準的 (二)

(神戸市教育會に於ける講習の一節)

文學士 檜崎淺太郎

五、明治の教育に於ける徳

育の消長

前にも申し上げました様に明治以前の教育の主眼は意志の鍛練と云ふ一點に置かれたのであつたが、明治の教育になつてから暫時の間は智力の教育に全力が注がれた。日本の文化は歐米の文明に

比べたら到底足元にも寄られ無いから何よりも先に國民一般の智力を高めるのが最急務と考へられて居た。かく考へて上下舉つて智育を主とした爲め勢ひ徳育の方は怠り勝ちになつた。かゝる状態の教育を明治十年頃まで行ふて見た。ところが智育に偏した過去十年の教育的經驗は識者をして其欠陥を認知せしめる様になり、維新以前までに涵